

平成30年6月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

平成30年5月10日

上場会社名 KeePer 技研株式会社 上場取引所 東・名  
 コード番号 6036 URL <http://www.keepercoating.jp/corp/>  
 代表者（役職名）代表取締役社長（氏名）谷 好通  
 問合せ先責任者（役職名）常務取締役経営企画本部長（氏名）滝谷 正史（TEL）0562-45-5258  
 四半期報告書提出予定日 平成30年5月11日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

（百万円未満切捨て）

1. 平成30年6月期第3四半期の業績（平成29年7月1日～平成30年3月31日）

（1）経営成績（累計）

（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年6月期第3四半期	5,387	3.7	669	△16.4	683	△14.8	427	△12.0
29年6月期第3四半期	5,197	6.7	801	16.1	801	20.2	485	15.7
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円 銭		円 銭					
30年6月期第3四半期	30.35		30.25					
29年6月期第3四半期	34.09		33.92					

（注）当社は、平成29年7月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。そのため前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益を算定しております。

（2）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年6月期第3四半期	5,655	4,213	74.5
29年6月期	5,789	3,918	67.7

（参考）自己資本 30年6月期第3四半期 4,213百万円 29年6月期 3,918百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年6月期	—	0.00	—	19.00	19.00
30年6月期	—	0.00	—		
30年6月期(予想)				10.00	10.00

（注）1 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

2 当社は、平成29年7月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。平成29年6月期については、当該株式分割前の実際の配当の額を記載しております。

3. 平成30年6月期の業績予想（平成29年7月1日～平成30年6月30日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	7,784	11.2	1,100	8.4	1,102	8.4	703	8.4	49.94

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	30年6月期3Q	14,102,020株	29年6月期	14,086,020株
② 期末自己株式数	30年6月期3Q	78株	29年6月期	78株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	30年6月期3Q	14,093,389株	29年6月期3Q	14,253,878株

(注) 当社は、平成29年7月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算定しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、本資料の発表日において、当社が入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づき策定したものであり、実際の業績等は様々な要因により予測数値より大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P4「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご参照ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	7
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間(平成29年7月1日から平成30年3月31日)における我が国の経済は、米国及び中国を中心に海外経済が好調に推移した結果、国内では企業収益や雇用環境の改善が続き、全体として底堅く成長を続けました。しかしながら、国際情勢は依然として不透明な状況にあり、原油価格も上昇傾向に衰えが見えず、経営環境の先行きには注意をはらう必要があります。

当社では、ユーザーに提供されるキーパーコーティングの品質の維持・向上を従来以上に実現していくことが、当面の業績を向上させるだけでなく、将来に向けての発展を目指したKeePerブランドのブランディングを確実にしていくために最も重要であると考えています。

第3四半期(平成30年1月1日から平成30年3月31日)の1月と2月は天候に恵まれず、キーパーLABO運営事業においては前年実績のある既存店での前年同期比において2か月連続で前年を下回る不調ぶりでした。しかし、実際にはキーパーLABO運営事業は新店が多数オープンしており全店での比較では、好天に恵まれた3月はもちろんの事、1月と2月においても前年を上回っており、第3四半期を通して堅調な上昇ぶりを示しております。

しかし、キーパー製品等関連事業においては、この事業における顧客の最も大きな業界である石油販売業界で、昨年、業界最大手のJXエネルギー株式会社と最大の競合であった東燃ゼネラル石油株式会社が合併してJXTGエネルギー株式会社になったという大変動があり、本業の石油販売の利益を補完する役割のキーパーコーティングなどの油外商品販売に一時的に手が回りにくい状況がありました。キーパープロショップの登録店舗数も増えず、1月2月の天候不順による販売の不調が輪をかけて低迷し、この第3四半期を通じて前年を下回る売上と営業利益となっております。

従って、第3四半期会計期間の売上は、キーパーLABO運営事業と加えて全体でやっと前年同期比2.2%増の14億30百万円となりました。今期累計ではキーパー製品等関連事業が前年同期比4.4%減、キーパーLABO運営事業が前年同期比17.9%増加で、合計で前年同期比3.7%増加の53億87百万円でありました。

それに対して販売費及び一般管理費は、新店が多くオープンしていることもあって、人件費が第3四半期会計期間の前年同期比で85百万円増加し、地代家賃が前年同期比で25百万円増加、広告宣伝費は前年同期比で47百万円増加しております。広告宣伝費は例年ならば第4四半期の4月に集中して使っていたテレビCM放映を今年は取りやめて3月にWeb広告などを打ったことにより増加したものです。

これらの要素があって販売費及び一般管理費は第3四半期会計期間で前年同期比20.1%増加で10億82百万円であり、営業利益は第3四半期会計期間で△31百万円となり、今期累計では前年同期比16.4%減の6億69百万円となります。

この減益はキーパー製品等関連事業において、石油販売業界最大の合併劇の余波を一時的に受けた影響が大きかったに過ぎず、春から初夏にかけての需要期、第4四半期にはJXTGエネルギー株式会社の強化施策もあり相当に挽回できるものと考えます。

#### ① (キーパー製品等関連事業)

キーパー製品等関連事業における最大の顧客である石油販売業界で最大手であるエネオスマークのJXエネルギー株式会社と、エッソマーク、モービルマーク、ゼネラルマークの東燃ゼネラル石油株式会社が歴史的な合併をして、業界における販売シェアが50%に及ぶなどの大激変の中、本業の石油販売の利益を補完する役割のキーパーコーティングなどの油外商品販売に一時的に手が回りにくい状況がありました。

しかし、これは一時的な現象であって、平成30年4月、つまり新年度よりJXTGエネルギー株式会社の油外商品に関する公式施策に、キーパーコーティングが正式に加えられるなど、従来にも増してコーティング事業に力が入られる体制となっており、当社今年度第4四半期当初よりキーパー製品等関連事業の増強が見込まれています。

また、従来のキーパーコーティングシリーズとは一線を画した路線の「艶パック」が販売を開始し、販売初月にすでに3,000本を越す出荷があり、マーケットからの強い期待を感じております。

これらの結果、当セグメントの当第3四半期累計期間における売上高は31億65百万円(前年同期比4.4%減少)セグメント利益は5億89百万円(同11%減少)となりました。ただし、内部取引による利益が1億12百万円含まれており、内部取引控除後の利益は4億76百万円(同13.3%減少)となります。

## ② (キーパーLABO運営事業)

この第3四半期(平成30年1月から平成30年3月まで)にオープンした新店は次の通りです。

平成30年1月	横浜綱島店
	新・安城店
平成30年3月	江南店
	相模原淵野辺店
	八王子店

第3四半期に5店舗

平成30年6月期に入ってから全面改装店も含めて12店舗がオープンしました。

平成30年4月	可児店
	豊橋店
	三郷中央店

(平成30年5月以降の出店予定)

開店時期	店名
平成30年5月	246玉川店
平成30年6月	葛飾店
	瀬谷南店
	泉インター店
	箕面店
	守山大森店
	大阪鶴見店
	市原店

続けて5月には「246玉川店」が完成直前であり、オープンは確実です。

更に6月には、ゴールデンウィーク明けに着工予定の店舗が立て続けにオープンする予定です。しかし6月にオープン予定の「大阪鶴見店」「市原店」が、工事業者の都合がつかず、平成30年6月末までの完成が難しい情勢になっています。

その結果、平成30年6月期における新店オープンの予定は24店舗でありましたが、はっきりと予定が立っている店舗が合計21店舗。ひょっとしてうまく工事業者の都合がついたとしても23店舗に終わる公算が強くなっております。ただ、比較的簡単に工事が終わる居抜き物件の候補が数店分あり、予定の24店舗オープンを完全にあきらめた訳ではありません。

キーパーLABO運営事業は天候に左右されながらも確実に実績を上げております。特にKeePerのネームバリューが上がって来ており、お客様が選ばれるキーパーコーティングシリーズの中でも、一番高価格であるダイヤモンドキーパーシリーズからの選択が増えて、一台当たりの平均単価が上がって来ております。

また、新規オープン店の立ち上がりについて江南店オープンの時の試みがうまく行っていて、今後の新店立ち上げにそれほどの時間がかからず採算点到達が可能になって来ております。

これらの結果、当セグメントの当第3四半期累計期間における売上高は22億21百万円(前年同期比17.9%増加)、セグメント利益は1億92百万円(同23.4%減少)となりました。ただし、内部取引による費用が1億12百万円含まれております。

## (2) 財政状態に関する説明

資産・負債及び純資産の状況

(資産)

当第3四半期会計期間末における総資産は、前事業年度末に比べ1億33百万円減少し、56億55百万円となりました。これは主として、現金及び預金が5億77百万円減少、新規出店等により有形固定資産が4億39百万円増加したこと等によるものです。

(負債)

当第3四半期会計期間末における負債合計は、前事業年度末に比べ4億28百万円減少し、14億42百万円となりました。これは主として、1年内返済予定の長期借入金が1億54百万円減少、長期借入金が1億33百万円減少、未払法人税等が1億21百万円減少したこと等によるものです。

(純資産)

当第3四半期会計期間末における純資産は、前事業年度末に比べ2億94百万円増加し、42億13百万円となりました。これは主として利益剰余金が四半期純利益により4億27百万円増加した一方で、配当により1億33百万円減少したこと等によるものです。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年6月期の業績予想につきましては、平成29年8月10日に公表いたしました業績予想を変更しておりません。実際の業績は、今後の様々な要因によって大きく差異が発生する可能性があります。今後、業績予想に関して修正の必要が生じた場合には、速やかに開示する予定であります。

## 2. 四半期財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年6月30日)	当第3四半期会計期間 (平成30年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,468,608	890,765
受取手形	163,880	143,660
売掛金	574,381	598,450
商品	505,188	412,671
貯蔵品	26,687	27,298
前払費用	99,369	132,336
繰延税金資産	36,372	38,600
その他	7,900	5,210
貸倒引当金	△520	△448
流動資産合計	2,881,868	2,248,545
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	1,472,507	1,784,954
構築物（純額）	103,836	123,217
機械及び装置（純額）	74,774	86,383
車両運搬具（純額）	24,670	23,739
工具、器具及び備品（純額）	96,889	100,850
土地	459,729	458,140
建設仮勘定	31,091	125,978
有形固定資産合計	2,263,500	2,703,264
無形固定資産		
のれん	650	—
ソフトウェア	41,990	44,350
その他	26,246	22,852
無形固定資産合計	68,887	67,202
投資その他の資産		
投資有価証券	16,360	16,880
長期前払費用	36,750	33,227
敷金及び保証金	227,423	293,012
建設協力金	158,545	150,867
保険積立金	13,499	13,091
繰延税金資産	122,790	129,609
その他	20	296
貸倒引当金	—	△276
投資その他の資産合計	575,389	636,708
固定資産合計	2,907,777	3,407,175
資産合計	5,789,645	5,655,721

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年6月30日)	当第3四半期会計期間 (平成30年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	200,036	135,863
1年内返済予定の長期借入金	381,277	226,318
未払金	157,051	145,736
未払法人税等	218,023	96,429
未払費用	142,635	111,498
賞与引当金	19,432	89,240
その他	51,771	37,346
流動負債合計	1,170,226	842,431
固定負債		
長期借入金	229,585	96,563
退職給付引当金	164,424	189,250
役員退職慰労引当金	227,967	223,099
資産除去債務	74,933	86,876
その他	4,043	4,043
固定負債合計	700,953	599,832
負債合計	1,871,180	1,442,264
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,345,163	1,345,867
資本剰余金	1,007,224	1,007,224
利益剰余金	1,565,121	1,859,046
自己株式	△61	△61
株主資本合計	3,917,447	4,212,076
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	1,017	1,379
評価・換算差額等合計	1,017	1,379
純資産合計	3,918,465	4,213,456
負債純資産合計	5,789,645	5,655,721



## (2) 四半期損益計算書

第3四半期累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成28年7月1日 至平成29年3月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成29年7月1日 至平成30年3月31日)
売上高	5,197,185	5,387,528
売上原価	1,501,195	1,466,414
売上総利益	3,695,990	3,921,114
販売費及び一般管理費	2,894,660	3,251,420
営業利益	801,329	669,693
営業外収益		
受取利息	423	634
受取配当金	180	180
為替差益	262	2,193
受取手数料	3,566	7,613
受取保険金	—	5,412
その他	796	363
営業外収益合計	5,229	16,397
営業外費用		
支払利息	4,312	2,678
その他	389	—
営業外費用合計	4,701	2,678
経常利益	801,857	683,412
特別利益		
固定資産売却益	1,336	1,396
特別利益合計	1,336	1,396
特別損失		
固定資産除売却損	28,776	17,372
退職給付費用	12,783	—
減損損失	16,248	—
店舗閉鎖損失	5,295	—
特別損失合計	63,104	17,372
税引前四半期純利益	740,089	667,436
法人税、住民税及び事業税	281,878	248,900
法人税等調整額	△27,745	△9,204
法人税等合計	254,133	239,695
四半期純利益	485,956	427,741

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

前第3四半期累計期間(自平成28年7月1日至平成29年3月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		合計
	キーパー製品等関連事業	キーパーLABO運営事業	
売上高			
外部顧客への売上高	3,312,142	1,885,043	5,197,185
セグメント間の内部 売上高又は振替高	181,157	—	181,157
計	3,493,299	1,885,043	5,378,343
セグメント利益	662,240	251,486	913,726

2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容  
(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	913,726
セグメント間取引消去	△112,396
四半期損益計算書の営業利益	801,329

(注) セグメント間の内部売上高181,157千円は、キーパー製品等関連事業から、キーパーLABO運営事業に対するものです。キーパー製品等関連事業のセグメント利益662,240千円には、セグメント間の内部売上高による利益112,396千円を含んでおります。

3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「キーパーLABO運営事業」セグメントにおいて、店舗資産の減損損失を計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期累計期間においては16,248千円であります。

当第3四半期累計期間（自 平成29年7月1日 至 平成30年3月31日）

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		合計
	キーパー製品等関連事業	キーパーLABO運営事業	
売上高			
外部顧客への売上高	3,165,645	2,221,883	5,387,528
セグメント間の内部 売上高又は振替高	191,073	—	191,073
計	3,356,718	2,221,883	5,578,601
セグメント利益	589,449	192,745	782,194

2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容  
(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	782,194
セグメント間取引消去	△112,501
四半期損益計算書の営業利益	669,693

(注) セグメント間の内部売上高191,073千円は、キーパー製品等関連事業から、キーパーLABO運営事業に対するものです。キーパー製品等関連事業のセグメント利益589,449千円には、セグメント間の内部売上高による利益112,501千円を含んでおります。